

## 用語集

「土砂災害防止計画書（本編）」の中で用いている防災気象情報や避難勧告等の用語について整理した。

### 【あ行】

#### アンカー工（あんかーこう）

基盤内に定着させた鋼材の引張強さを利用して、地すべり滑動力に対抗しようとするもの

#### Lアラート（えるあらーと）

（災害情報共有システム）（さいがいじょうほうきょうゆうしすてむ）

地方自治体が発信する避難指示や土砂災害警戒情報をICTの活用により一括化し、テレビ、ラジオなどの様々なメディアを通じて、地域住民に迅速かつ効率的に提供することを実現するもの

※「公共情報コモンズ」が、国民に分かりやすい新たな名称として「Lアラート（災害情報共有システム）」に変更された

#### 大雨警報（おおあめけいほう）

気象台が、大雨によって、重大な災害の起こるおそれのある旨を警告して概ね市町村単位で発表。

雨量基準に到達することが予想される場合は「大雨警報（浸水害）」、土壌雨量指数基準に到達すると予想される場合は「大雨警報（土砂災害）」、両基準に到達すると予想される場合は「大雨警報（土砂災害、浸水害）」として発表。

#### 大雨注意報（おおあめちゅういほう）

気象台が、大雨によって、災害が起こるおそれがある場合にその旨を注意して概ね市町村単位で発表。

#### 大雨特別警報（おおあめとくべつけいほう）

気象台が、台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表。

大雨特別警報には、雨量を基準とするものと、台風等の強度を基準とするものの2種類があり、各々の具体的な指標は以下のとおり。

##### ■雨量を基準とする大雨特別警報

以下①又は②いずれかを満たすと予想され、かつ、更に雨が降り続くと予想され

る場合。

- ① 48 時間降水量及び土壌雨量指数において、50 年に一度の値以上となった5km 格子が、共に府県程度の広がり範囲内で50 格子以上出現。
- ② 3 時間降水量及び土壌雨量指数において、50 年に一度の値以上となった5km 格子が、共に府県程度の広がり範囲内で10 格子以上出現（ただし、3 時間降水量が150mm 以上となった格子のみをカウント対象とする）。

■台風等の強度を基準とする大雨特別警報

「伊勢湾台風」級（中心気圧930hPa 以下又は最大風速50m/s 以上）の台風や同程度の温帯低気圧が来襲する場合。ただし、沖縄地方、奄美地方及び小笠原諸島については、中心気圧910hPa 以下又は最大風速60m/s 以上。

押え盛土工（おさえもりどころ）

押え盛土工は、原則として地すべり土塊の末端部に盛土を行うことにより、地すべり滑動力に抵抗する力を増加させるもの

【か行】

階段ダム工（かいだんだむこう）

溪流の縦侵食を防止するために、床固工を階段状に設ける工法。どの床固工の堆砂線も一つ上流の床固工の基礎に達して前庭部の洗屈を堆砂で防ぐように設計する。

火砕流（かさいりゅう）

噴火によって火口から噴出した高温の火山噴出物が、高速で火山体斜面を流下する現象のこと

火山砂防事業（かざんさぼうじぎょう）

火山地域における荒廃地域の保全を行うとともに、土石流及び火山噴火にともなう火山泥流、火砕流、溶岩流等の異常な土砂流出による災害から下流部に存在する人家、耕地、公共施設等を守ることを目的とする事業

危険降雨量（きけんこうりょう）

過去の降雨の状況及び土砂災害の発生状況等を総合的に勘案して設定される基準であり、設定にあたっては、原則として国土交通省の解析雨量を用い、現在の監視予測技術を考慮して5km格子単位で設定されたもの

記録的短時間大雨情報（きろくてきたんじかんおおあめじょうほう）

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測（地上の雨量計による観測）したり、解析（気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析）したときに発表される情報。

緊急速報メール（きんきゅうそくほうめーる）

緊急地震速報に加えて国や自治体が発信する「災害・避難情報」や「津波警報」などを携帯電話へ発信するサービスの名称

杭工（くいこう）

杭を不動地盤まで挿入することによって、せん断抵抗力や曲げ抵抗力を付加し、地すべり土塊の滑動力に対し、直接抵抗することを目的として計画されるもの

溪流保全工（けいりゅうほぜんこう）

溪流の下流部において、想定される洪水を安全に下流に流すための施設

降水短時間予報（こうすいたんじかんよほう）

1時間降水量について分布図形式で行う予報。30分毎に発表し、1km 格子単位で6時間後（1時間～6時間先）まで予報する。

降水ナウキャスト（こうすいなうきゃすと）

降水強度について分布図形式で行う予報。5分毎に発表し、1km 格子単位で1時間後（5分～60分先）まで予報する。

降水量解析値（こうすいりょうかいせきち）

アメダスや自治体等の雨量計による正確な雨量観測と気象レーダーによる広範囲にわたる面的な雨の分布強さの観測とのそれぞれの長所を組み合わせ、より精度が高い、面的な雨量を1km格子で解析したもの。

## 【さ行】

災害時要援護者（さいがいじょうえんごしゃ）

避難行動に必要な情報を迅速かつ正確に把握することが困難な者、災害から自らを守るための避難行動をとるのに手助けが必要な者（例えば、高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等）。

平成25年6月の災害対策法改正において、「高齢者、障害者、乳幼児その他の災害時特に配慮を要する者」を「要配慮者」と定義されている。

#### 砂防堰堤（さぼうえんてい）

小さな溪流などに設置される土砂災害防止のための設備（砂防設備）のひとつ。砂防法に基づき整備され、いわゆる一般のダムとは異なり、土砂災害の防止に特化したものを指す

#### 山体崩壊（さんたいほうかい）

火山噴火で山が崩れ落ちること

#### 山地災害危険地区（さんちさいがいきけんちく）

都道府県林務担当部局及び森林管理局が調査した山地災害（山腹崩壊、崩壊土砂流出、地すべり）による被害のおそれがある地区。

##### ① 山腹崩壊危険地区

山腹崩壊により人家や公共施設等に災害（落石による災害を含む。）が発生するおそれがある地区

##### ② 崩壊土砂流出危険地区

山腹崩壊又は地すべりによって発生した土砂等が土石流となって流出し、人家や公共施設等に災害が発生するおそれがある地区

##### ③ 地すべり危険地区

地すべりにより人家や公共施設等に災害が発生するおそれがある地区

#### 自主防災組織（じしゅぼうさいそしき）

地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織のこと

#### 地すべり（じすべり）

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象

#### 深層崩壊（しんそうほうかい）

山崩れ・崖崩れなどの斜面崩壊のうち、すべり面が表層崩壊よりも深部で発生し、表土層だけでなく深層の地盤までもが崩壊土塊となる比較的規模の大きな崩壊現象

#### 森林整備保全事業計画（しんりんせいびほぜんじぎょうけいかく）

森林法(昭和26年法律第249号)に基づき、全国森林計画に掲げる森林の整備及び保全の目標の計画的かつ着実な達成に資するため、農林水産大臣が5年ごとに、5年間の森林整備保

全事業（森林整備事業、治山事業）の実施の目標及び事業量を定めるもの

垂直避難（すいちよくひなん）

切迫した状況において、屋内の2階以上に避難すること。

水平避難（すいへいひなん）

その場を立ち退き、近隣の少しでも安全な場所に一時的に避難すること。または、居住地と異なる場所で生活を前提とし、避難所等に長期間避難すること。

【た行】

待避（たいひ）

自宅などの居場所や安全を確保できる場所に留まること。

立ち退き避難（たちのきひなん）※

自宅等から指定避難場所や安全な場所へ移動する避難行動。

水平避難と同意。

地下水排除工（ちかすいはいじょう）

地すべりの原因となる地下水を排除するための工事

地表水排除工（ちひょうすいはいじょう）

降った雨などの地表水が浸透して地下水になる前に、水路を設けて地すべりブロックの外に流すための工事

貯砂ダム工（ちょさだむこう）

荒廃地から流出する土砂・石礫や、大出水時に上流域より流下する土砂・石礫を貯留する目的で設けられる砂防ダムのことをいう。

通常砂防事業（つうじょうさぼうじぎょう）

流域における荒廃地域の保全及び土石流等の土砂災害から下流部に存在する人家、耕地、公共施設等を守ることを目的とする事業

導流堤（どうりゅうてい）

川の合流点や河口の部分における流路が、土砂の堆積によって乱されるのを防ぐために設けられる堤防や、泥流を無害に下流に流下させるために設けられる堤防のことをいう。

### 床固工（とこがためこう）

河床洗掘を防止して河床縦断形状を規制し、流水の流向を制御する目的で河川を横断して造られる構造物をいう。床固め工には、このほか氾濫水の集水を兼ねて、流路工最上流端に設けられる、いわゆる「止めの床固め工」もある。一般に高さは5 m以下で、有効落差は2～3 mが多い。床固め工は貯砂機能は有しないが、河床固定、縦断勾配の緩和、乱流の防止の効果の他、河岸崩壊の防止の効果を持つ。

### 土砂災害危険区域（どしゃさいがいきけんくいき）

都道府県が調査した土砂災害（急傾斜地崩壊、土石流、地すべり）による被害のおそれがある区域。

#### ① 急傾斜地崩壊危険箇所の被害想定区域

傾斜度30 度以上、高さ5m 以上の急傾斜地で人家や公共施設に被害を及ぼすおそれのある急傾斜地およびその近接地

#### ② 土石流危険区域

溪流の勾配が3 度以上（火山砂防地域では2 度以上）あり、土石流が発生した場合に被害が予想される危険区域に、人家や公共施設がある区域

#### ③ 地すべり危険区域

空中写真の判読や災害記録の調査、現地調査によって、地すべりの発生するおそれがあると判断された区域のうち、河川・道路・公共施設・人家等に被害を与えるおそれのある範囲

### 土砂災害緊急情報（どしゃさいがいきんきゅうじょうほう）

県又は国土交通省が、緊急調査の結果に基づき発表する土砂災害が想定される土地の区域及び時期に関する情報。

### 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

（どしゃさいがいけいかいくいき・どしゃさいがいとくべつけいかいくいき）

土砂災害防止法（土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律）に基づき都道府県が指定した、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域。

① 土砂災害警戒区域：土砂災害が発生した場合に住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあり、警戒避難体制を特に整備すべき区域

② 土砂災害特別警戒区域：土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあり、一定の開発行為の制限及び建築物の構造の規制をすべき区域

土砂災害警戒情報（どしゃさいがいけいかいじょうほう）

大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、対象となる市町村を特定して都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報。

土壌雨量指数（どじょうりょうしすう）

降った雨が土壌にどれだけ貯まっているかを、雨量データから指数化して表したもの。5kmメッシュ、30分毎に計算している。

### 【は行】

排土工（はいどこう）

斜面の安定を図るために、土塊の頭部あるいは全体を取り除くこと

ハザードマップ（はざーどまっぷ）

自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの

避難勧告（ひなんかんこく）

市町村長が、必要と認める地域の居住者等に対し、避難のための立ち退きを勧告すること。

避難行動要支援者（ひなんこうどうようしえんしゃ）

要配慮者のうち、災害が発生し、または災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する者。

避難指示（ひなんしじ）

市町村長が、急を要すると認めるときに、必要と認める地域の居住者等に対し、避難のための立ち退きを指示すること。

また、土砂災害等から立ち退き避難をしそびれた者に屋内安全確保を促す。

津波災害については、立ち退き避難を促す。

避難準備情報（ひなんじゅんびじょうほう）

市町村長が、必要と認める地域の居住者等に対し、避難のための立ち退きを準備してもらうために発令する情報。

本ガイドラインでは、気象情報に注意を払い、立ち退き避難の必要について考え、立ち退き避難が必要と判断する場合は、その準備をすることを求める。

また、（災害時）要配慮者に、立ち退き避難を促す。

#### 避難所（ひなんじょ）

災害により住宅を失った場合等において、一定期間避難生活をする場所。

#### 避難場所（ひなんばしょ）

切迫した災害の危険から命を守るために避難する場所。

#### 暴風警報（ぼうふうけいほう）

気象台が、暴風によって、重大な災害の起こるおそれのある場合にその旨を警告して行う予報。平均風速がおおむね20m/s を超える場合（地方により基準値が異なる）に発表。

#### 暴風特別警報（ぼうふうとくべつけいほう）

気象台が、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くになると予想される場合に発表。具体的な指標は以下の通り。

##### ■台風等を要因とする暴風特別警報

「伊勢湾台風」級（中心気圧930hPa 以下又は最大風速50m/s 以上）の台風や同程度の温帯低気圧が来襲する場合。ただし、沖縄地方、奄美地方及び小笠原諸島については、中心気圧910hPa以下又は最大風速60m/s 以上。

#### 【や行】

#### 要配慮者（ようはいりょしゃ）

平成25 年6 月に改正された災害対策基本法において定義された「高齢者、障害者、乳幼児その他の災害時特に配慮を要する者」のこと。

#### 抑止工（よくしこう）

構造物の持つ抵抗力を利用して地すべり運動の一部または全部を停止させる工法

#### 抑制工（よくせいこう）

地すべり地の地形、地下水の状態などの自然条件を変化させることによって、地すべりの滑動力と抵抗力のバランスを改善し、地すべり運動を停止または緩和させる工法



## 【ら行】

RBFネットワーク（あーるびーえふねっとわーく）

Radial Basis Function (RBF) ネットワークは、有限個の入出力データを補完する方法として提案された、3層から構成されるニューラルネットワークのこと。

土砂災害警戒情報の発表、解除基準となる危険降雨量を設定する際に用いられ手法であり、土砂災害が発生していない降雨事例のデータを入力として、「非発生降雨の発現確率」を求める（大きい値ほど土砂災害発生の危険度は低く、小さいほど土砂災害発生の危険度が高い）。

累積雨量（るいせきうりょう）

降り始めからの雨量

60 分間積算雨量（60ふんせきさんうりょう）

最新雨量を含んだ過去60分間の雨量を積算したもの。